**ヴェルディ：歌劇《ナブッコ》序曲**

旧約聖書に登場するバビロン王ナブッコ（ネブカドネザル 2 世）を描いた全 4 幕の歌劇《ナブッコ》は 1842 年の初演。愛妻と二人の児を喪って絶望の淵にあったヴェルディに起死回生をもたらした一作で、序曲には劇中のメロディが次々に現れる。

**マスカーニ：歌劇《カヴァレリア・ルスティカーナ》間奏曲**

1890 年に初演された歌劇《カヴァレリア・ルスティカーナ》（全 1 幕）は、イタリアのヴェリズモ（現実主義）オペラの嚆矢となった作品で、タイトルは「田舎の騎士道」という意味。間奏曲は、その耽美な旋律から単独で演奏される機会も多い。

**レオンカヴァッロ：歌劇《道化師》間奏曲**

《カヴァレリア・ルスティカーナ》と並んでヴェリズモ・オペラの代表作とされる歌劇《道化師》（全 2 幕）は 1892 年に初演された。旅芝居一座の血なまぐさい事件に材を採り、作曲家自身が台本を書いた。その間奏曲は短いが、心にしみる。

**ジョルダーノ：歌劇《フェドーラ》間奏曲**

ジョルダーノは若い頃にヴィクトリアン・サルドゥの戯曲『フェドーラ』（1882）に接して、オペラ化を夢見た。その宿願を果たしたのは 1898 年のこと。誤解から悲劇を招く皇女フェドーラの恋を描いた全 3 幕の歌劇《フェドーラ》には、若き日のテノール歌手エンリコ・カルーソーも出演して、初演は大成功を収めた。

**プッチーニ：歌劇《マノン・レスコー》間奏曲**

アベ・プレヴォの有名小説をオペラ化した全 4 幕からなる歌劇《マノン・レスコー》は 1893 年の初演。騎士デ・グリューと魔性の美少女マノン・レスコーの破滅的な恋愛を描いた悲劇で、プッチーニの出世作となった。間奏曲では、罪人となったマノンと彼女を救いたいデ・グリューの思いが甘美な旋律で描かれる。

**ヴェルディ：歌劇《運命の力》序曲**

全 4 幕からなる歌劇《運命の力》は、原典版が 1862 年に、改訂版が 1869 年にそれぞれ初演された。改訂版で組み入れられた序曲は、ヴェルディが自身のオペラに付けた最後の序曲となった。悲劇的な運命を予感させる冒頭から、全編を凝縮したような、息もつかせぬハイライトシーンが連続する。

**カタラーニ：コンテンプラツィオーネ**

19 世紀後半イタリアの作曲家アルフレード・カタラーニは、代表作として名作オペラ 2 つを遺し、39 歳の若さで没した。「コンテンプラツィオーネ」は 1878 年の作。管弦楽のための前奏曲であり、ヴァイオリンの甘美な旋律と、それにからむ管楽器の繊細な対話を聴くことができる。

**レスピーギ：交響詩《ローマの松》**

「ローマ三部作」のひとつ、交響詩《ローマの松》は 1924 年、レスピーギが由緒あるサンタ・チェチーリア国立アカデミアの院長を務めていた頃に作曲。ローマの 4 つの松を舞台に、古

代ローマの記憶を呼び起こす幻想的な空間に誘う。4 つの部分は間断なく演奏され、それぞれ異なった松と場所と時間が描かれる。第 1 部はボルゲーゼ荘の松の木立の間で賑やかに遊ぶ子どもたちの情景。第 2 部はカタコンブ（地下墓所）の入り口に立つ松。地下からはローマ帝国に弾圧されたキリスト教徒の聖歌が聴こえてくる。第 3 部はローマを一望するジャニコロの丘の松が、満月の明るい光に浮かぶ。最後にナイチンゲールの鳴き声が再生されるが、これは録音物を生演奏中に用いた最初期の実例である。第 4 部はローマ帝国の幹線道路であるアッピア街道の松。霧深い夜明けに進軍するローマ軍を幻視するように、最後はファンファーレも加わって勇壮に曲を閉じる。